

令和 7 年度 大阪府堺市保健医療協議会

在宅医療・ターミナルケア部会 議事概要

日時：令和 7 年 10 月 29 日（水）午後 2 時から午後 3 時

開催場所：堺市役所本館 6 階 会議室

出席委員：13 名

（委員定数 15 名、定足数 8 名であるため有効に成立）

小田委員、辻本委員、井上委員、釜江委員、亀山委員、黒田委員、白井委員、永井委員、馬場委員、前原委員、松井委員、山本委員、和田委員

■議題 1 在宅医療において必要な連携の拠点等の取組状況について （府域における補助事業の申請状況の報告）

資料に基づき、大阪府健康医療部保健医療室保健医療企画課から説明

【資料 1】在宅医療に必要な連携を担う拠点等の取組について（府域における補助事業の申請状況の報告）

【参考資料 1】医療計画における在宅医療の指標及び各圏域の参考指標の状況

（質問）

- 資料 1（2）の記載方法について、「対象」の欄は、結果や成果があったことを書くべきであると思うが、②以外は記載されていないのはなぜか。

（大阪府の回答）

- 令和 7 年度の申請状況を書かせていただいております、成果としてまだ書けるものがない地域もあったため。しかしながら、ご指摘のとおり、2 番のように予定を含めた成果を記載するなど、次回からは記載方法を工夫する。

（質問）

- 医介連携事業と連携の拠点の事業に対しての補助金について、区別はできているのか。

（大阪府の回答）

- 重複がないよう、申請する際に提出いただいているチェックシートを確認したうえで、交付決定している。

（質問）

- これまでの医介連携事業において、地域の資源の把握を行ってきたと認識しているが、なぜ今になって連携の拠点の事業として行うのか。

（大阪府の回答）

- 地域によっては、今知っている情報を更新するという場合にもこの事業を使って調査を行っている。

■議題 2 堺市圏域における在宅医療において必要な連携の拠点の取組状況について（報告・意見交換）

資料に基づき、辻本委員から説明

【資料 2】堺市圏域における在宅医療において必要な連携の拠点の取組状況について

（質問）

- 今後、連携の拠点が積極的医療機関をまとめていく必要があり、SACAY 在宅医チームもできてきているところではあるが、それに関連して、何か情報があるか。

（委員の回答）

- 在宅医療は 24 時間体制が一番ネックとなっており、そこを補ってこそ積極的医療機関に該当するということで手挙げしていただいた。これから急用で往診に行けない時などは SACAY 在宅医チームで 24 時間体制を構築し、連携していく。

（質問）

- SACAY 在宅医チームについて、代診の実績について教えていただきたい。

（部会長の回答）

- 30 医療機関ぐらいがチームに入っており、既に代診を頼んだというところが 3、4 か所の組合せがある。

（質問）

- 連携の拠点の取組は医師会が担っているが、医師会が勝手に単独で実施するという意味合いなのか、それとも行政と連携していかないといけないのか。

（大阪府の回答）

- 医師会と行政が情報共有をしながら、一緒に進めていただけたらと思っている。

（質問）

- 堺市として、連携の拠点の取組をどのぐらい把握していて、どのぐらい一緒に活動していて、これからどうしていきたいのか意見を聞かせてほしい。

（堺市の回答）

- 在宅医療の連携の事業といったところは、地域の医療機関、医師会、府や市が連携して実施していく必要があると考えている。

■議題3 在宅医療において積極的役割を担う医療機関の再設定について

資料に基づき、堺市健康医療政策課から説明

【資料3】積極的医療機関 申請予定医療機関一覧

<協議結果>

再設定申請のあった31医療機関について承認された。

■議題4 地域医療介護総合確保基金事業（医療分）について（報告）

資料に基づき、大阪府健康医療部保健医療室保健医療企画課から報告

【資料4】地域医療介護総合確保基金（医療分）について

【参考資料2】地域医療介護総合確保基金事業（医療分） 一覧

（質問）

- 以前行われていた事業で、病診連携のICTを活用したシステム構築のために、基金から幾らか補助金が出ていたが、その事業は終わってしまったのか。

（大阪府の回答）

- 府では平成23年度より基金を活用して地域連携ネットワークの導入費を補助してきた。会検を踏まえた国通知や、府の実態調査結果、国の全国医療情報プラットフォーム（PF）の動きなどもあり、第8次医療計画では、地連ネットワークについては、国の仕組み等も勘案しつつ、二次医療圏単位で構築する仕組みを支援するとしている。堺市域で取り組まれている地連ネットワークについては、令和6年度も1病院支援を行わせていただいたところ。一方で、令和7年度については、全国のプラットフォームの構築や、地連ネットワークとの役割や補助の在り方について検討中と国が言っており、府としても注視することとして、予算化はしていない。

（意見等）

- 国で進められている全国医療情報プラットフォームと病診連携ICTは画像データなど機能面からして異なるものと考えるべきであり、国が結論を出していないとはいえ、同時に議論を進めなければいけないと思う。
- 地連ネットワークは、登録患者が多ければ多いほど有用性が高くなるため、多くの施設が参加することは重要なことだが、今後補助金が出ないということは、全ての資金を病院が自前で出さなくてはならない状態となり、このネットワークを発展させていくには、非常に厳しい状況になっていく。
- 救急搬送に関することや、災害時の活用など、機能拡大していくことで基金の対象にならないかという議論もできると思うので、検討してほしい。

■その他

資料に基づき、大阪府健康医療部保健医療室保健医療企画課から説明

【資料 5】「人生会議の日」に向けた大阪府の取組等について

(意見等)

- 大阪府から委託を受けて訪問看護ステーション協会で、人生会議人材育成研修をしており、年 2 回、50 人以上の参加目標を達成した。看護師、医療職でも人生会議を誤解されている方も一定数いらっしゃるので、実践型ロールプレイの体験型研修で、好評を得ている。